

**原子力システム研究開発事業  
特別推進分野 事後評価総合所見**

研究開発課題名：最新の妥当性立証手法に基づくFBR流動設計手法の検証方法の研究

研究代表者（研究機関名）：笠間貴寛（三菱重工業株式会社）

再委託先研究責任者（研究機関名）：功刀資彰（国立大学法人京都大学）

再委託先研究責任者（研究機関名）：山口彰（国立大学法人大阪大学）

再委託先研究責任者（研究機関名）：西義久（一般財団法人電力中央研究所）

研究期間及び研究経費：平成21年度～平成24年度（4年計画）39百万円

項 目	要 約				
1. 研究開発の概要	高速炉の流動設計に適用される手法の根拠となる解析コードと模擬流動実験の妥当性を、考慮すべき現象の相似則と統計的不確かさ等に基づいて立証する手法を研究した。				
2. 総合評価	<table border="1" style="width: 100%;"><tr><td style="text-align: center; width: 50px;"><b>A</b></td><td>本研究成果を活用して、実証炉に向けた流動解析、実験を行って頂きたい。論文発表や特許申請など、成果の公表のための努力を払って頂きたい。</td></tr><tr><td></td><td>S) 極めて優れた成果が挙げられている。 A) <b>優れた成果が挙げられている。</b> B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている。 C) 部分的な成果に留まっている。 D) 成果がほとんど挙げられていない。</td></tr></table>	<b>A</b>	本研究成果を活用して、実証炉に向けた流動解析、実験を行って頂きたい。論文発表や特許申請など、成果の公表のための努力を払って頂きたい。		S) 極めて優れた成果が挙げられている。 A) <b>優れた成果が挙げられている。</b> B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている。 C) 部分的な成果に留まっている。 D) 成果がほとんど挙げられていない。
<b>A</b>	本研究成果を活用して、実証炉に向けた流動解析、実験を行って頂きたい。論文発表や特許申請など、成果の公表のための努力を払って頂きたい。				
	S) 極めて優れた成果が挙げられている。 A) <b>優れた成果が挙げられている。</b> B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている。 C) 部分的な成果に留まっている。 D) 成果がほとんど挙げられていない。				